

# りべら

2016.5  
140  
号



りべら 2016.5 140号  
発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)  
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

## 特集:自転車まちづくり～自転車で変わる 人・街・暮らし～

子どもの世界を広げる自転車の力・・・1

子ども自転車教室の7年間のあゆみ 井上守・・・1

大阪市自転車通行整備計画の策定が進む 大阪の自転車事情 藤本典昭・・・3

台湾の自転車パワー 自転車の国際会議「ヴェロシティ2016」参加記・・・5

日常生活にタンデム自転車を使いたい～アンケートでニーズと課題を調査～・・・6

忙中一筆 吉田智里・・・7

西淀川の2つの農園紹介「ニシヨドガワラシゴト」と「に～よん農園」・・・8

西淀川記憶あつめ隊 峰原利範さん・・・9

よそものが釜石に行く・・・10

防災絵本「西淀川にたいふうがきた」ができました 谷内久美子・・・10

リレー連載 あおぞら財団にじゅうまる! 公害・環境教育教材からふりかえるあおぞら財団の20年(上)・・・11

「わー、飛行機がでっかい!」

子ども自転車教室～伊丹空港と田能遺跡をめぐる 猪名川サイクリング!～(2016.3.26)

## あおぞらフォトギャラリー



災害時、みんなで助けあいましょう。西淀川区内の福祉避難所で合同訓練(2016.2.18)

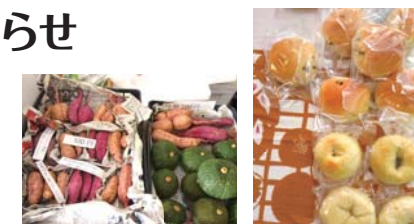


呼吸を楽にするリハビリテーションがあります。第2回医療従事者向け呼吸ケア・リハビリテーション講習会(2016.2.13)



国際交流 中国から環境NGOメンバー11人が日本の公害経験を学ぶ研修に来ました。2日目は自転車で西淀川区めぐり(2016.3.9～10)

## お知らせ



●あおぞら市  
～新鮮野菜やランチ、ハンドメイド雑貨などお買い得がいっぱい～

毎月第2・第4水曜日、あおぞらビル1階で開催しています!

日程:2016年4/13、4/27、5/11、5/25、6/8、6/22、7/13、7/27、8/10、8/24、9/14、9/28、10/12、10/26、11/9、12/14、2017年1/11、1/25、2/8、2/22、3/8、3/22、※11/23、12/28はお休み

開催時間:10:00～13:30(順次開店)【雨天決行・荒天中止】

場所:あおぞらイコバ(あおぞらビル1Fの地域交流スペース)

最寄駅JR東西線「御幣島(みてじま)」駅(西)出口スグ

※開催は予告なく変更する場合がありますので、詳しくはお問い合わせください。

※出店者も絶賛募集中

あおぞら市にお店を出しませんか?野菜や雑貨、その他応相談。

1スペース500円。

## あおぞら財団とは

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階  
(TEL)06-6475-8885 (FAX)06-6478-5885  
電子メール:webmaster@aozora.or.jp http://aozora.or.jp/

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978～1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

## あおぞらビル

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。  
午前:1,000円/午後:1,300円/夜間:1,300円/全日:3,000円

【5F】西淀川・公害と環境資料館(エコミュージズ)

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。

開館日 月曜日と金曜日(10:00～17:00)／要事前電話予約

●いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

## 会員・寄附募集

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

●賛助会員 会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。

【年会費】個人:年一口5,000円、学生:年一口2,000円、  
法人・団体:年一口10,000円

●会費・寄附の振込先

※郵便振替口座 00960-9-124893 加入者名:あおぞら財団

※三菱東京UFJ銀行 歌島橋支店 普通 3764689

口座名義:あおぞら財団賛助会員



コース1【約20.9キロ】

伊丹空港と田能遺跡をめぐる 猪名川サイクリング

西淀公園→大野川緑陰道路→なにわ自転車道(神崎川左岸)→猪名川沿い→田能遺跡→伊丹空港南端→旧猪名川緑地→大豊橋→なにわ自転車道→あおぞら財団



猪名川沿い



飛行機に手をふる子どもたち

西淀川区発

自転車で行ってみよー

子ども自転車サイクリング・コース



すこい経験をして刺激を受けたようで、見たこと感じたことを二人とも目をキラキラさせながら話してくれました。

保護者のコメント

コース2【約20.3キロ】

北港・舞洲 海の道サイクリング

西淀公園→大野川緑陰道路→伝法大橋→淀川左岸堤防→北港ヨットハーバー→常吉大橋→舞洲→(復路往路と同じ)



北港ヨットハーバー



舞洲緑地「見晴らしの丘」



こんなに遠くまで、自転車ってすごいなー



「排ガスを出す自動車よりも自転車を使おう」、「もっと自転車が走りやすい街にしよう」ということで、あおぞら財団では「自転車文化タウンづくりの会」や「大阪でタンデム自転車を楽しむ会」の事務局をしながら「自転車まちづくり」に取り組んでいます。本特集で、人や街、暮らしを変える力をもつ「自転車」の可能性を感じてもらえたらと思います。

あおぞら財団では、東淀川区で子ども自転車教室の実績をもつ(一社)コミュニティマネジメント協会(CMA)と協力して西淀川区で「子ども自転車教室」を年1回のペースで開催しています。

この教室は、交通ルールを紙芝居で勉強し、一本橋やゴムロールを使った走行練習をおこなう「安全教室」と、往復20キロ前後の距離を自転車で走るサイクリングの2部構成になっています。

CMA代表の井上守氏は、「初めて出会う子どもたちと大人たちが協力してこんなに充実した1日を過ごすことができる自転車力にビックリポンですね」と言います。

子どもにとって、自転車は広い世界へ出ていく第1歩。その第1歩を安全に楽しく踏み出せるよう、手助けする活動はこれからも続きます。大人もちゃんとしなないとね。📷



乗る前には点検しよう



ゴムロールの上をまっすぐ走れるかな?

子どもの世界を広げる自転車の力

交通ルールを学び、サイクリングが体験できる子ども自転車教室



ハンドサイン(手信号)を出して、左へ曲がります



シーソーから落ちないように、しっかりこいで



S字スラロームでハンドル操作を練習

子ども自転車教室今後の課題

- ①様々な子ども自転車教室の情報収集と共有
- ②学習目的の明確化とそれに対応した多様な自転車教室の展開
- ③子ども向けカリキュラムの整備と指導者育成(指導書・講習他)
- ④(以上の前提として)子ども自転車教育の社会的な位置づけの明確化
- ⑤(本稿テーマ外ですが)高齢者、学生向け他多様な自転車教室の展開

自転車走行を学ぶ、そのためのチームワーク育成(子ども同士、大人との連携)、サイクリングで見えてくる「まちの魅力発見」等のテーマを加え、学習+自転車の楽しさを目指した時期といえます。第3期のきっかけは「ウィーラースクール」(以下WSJ)との出会いです。WSJはベルギーの子ども向け自転車教材ベースのカリキュラムによる子ども自転車教室で、自転車走行の基礎技術を反復練習することで、安全な自転車利用だけでなく「自転車の楽しみ」に気づかせることを願って行われています。CMA自転車教室もWSJカリキュラムを組み込むことにより、安全教室としての充実、子どもたちの自転車スキルアップを味わせていきます。最近では「疑似道路による自転車走行」を組み込むことで、更に実践的な自転車教室を実施しています。子どもたちの自転車事故での巨額な損害賠償訴訟他の社会状況もふまえての自転車教室の多様な展開、といったところで、以上が自転車教室の第3期で、現在まで続いています。7年間の活動を駆け足でトレースしてみました。その後、感じたアップさせていたで筆をおきます。

2011~2013年の第2期は、子どもたちと一緒にマチに出て自転車走ること、実践的な活動でした。



西淀路小自転車安全教室

「自転車お絵かき ↓ 自転車の理解」「自転車お手入 ↓ モノを大切に」「マナー教室 ↓ ルールを守る」のようなプログラムで、「自転車安全教室」と

時代でもありません。自転車教室は「自転車お絵かき ↓ 自転車の理解」「自転車お手入 ↓ モノを大切に」「マナー教室 ↓ ルールを守る」のようなプログラムで、「自転車安全教室」というよりも自転車を媒介した「自転車塾」のような活動でした。2011~2013年の第2期は、子どもたちと一緒にマチに出て自転車走ること、実践的な活動でした。

井上守

一般社団法人「コミュニティマネジメント協会」代表理事  
自転車文化タウンづくりの会 副会長

子ども自転車教室の7年間のあゆみ





# 大阪市自転車通行整備計画の策定が進む 大阪の自転車事情

NPO自転車活用推進研究会 理事  
 自転車文化タウンづくりの会 幹事

藤本 典昭

議が始まった(大阪市自転車通行環境整備に関する検討会議 / 2015年8月~2016年3月)。筆者はその検討会議委員として、4回にわたる会議で意見を述べた。

## 大阪はどこに向かうのか?

「自転車は車両である」

これは1960年に道路交通法が施行されて以来、今日に至るまで一貫して変わらない文言である。しかし、今から45年以上も前にモーターゼーションの名の下、急激に増加した自動車とそれを受け入れる道路環境が整わない中、急増した交通事故対策の一時的な緊急措置として、

「自転車の歩道通行」を認める例外を設けた法律(道路交通法第63条の4)が施行され、自転車の歩道通行が日常化してしまつた。その間、道路整備は自動車目線(優先)で延々と進み、車両としての自転車の通る環境整備が遅れた。結果、歩行者が安心安全に通

今後、自転車レーンが整備されていきます



※中心部=都心6区(北区、中央区、西区、福島区、浪速区、天王寺区)  
 図 本市がめざす将来的な自転車ネットワークイメージ(中心部0.5km間隔、周辺部1km間隔)

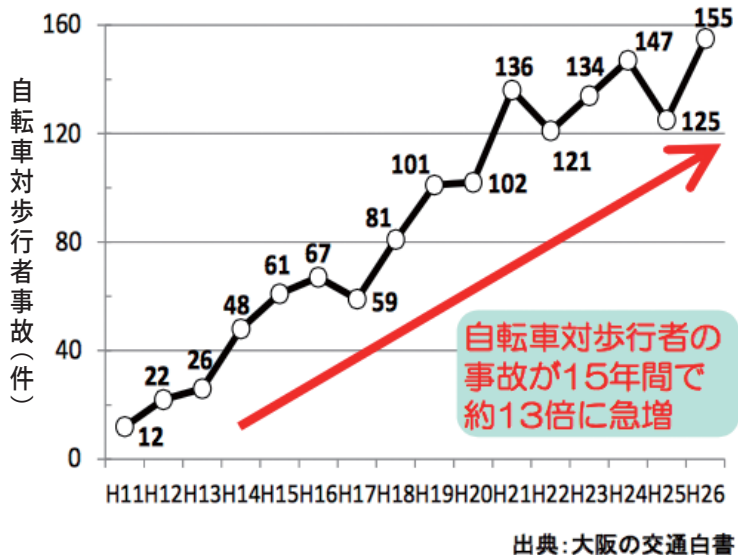
行できるはずの歩道の安全が脅かされ、自転車の増加に伴い、自転車と歩行者との接触事故は急増してきたのである。筆者が企画した「検討会議」は、従来公共交通機関での移動を前提として、自転車通行環境が整っていない市内中心部の幹線道路に重点をおいた整備を目指したものである。会議では道路を利用する歩行者、自転車、自動車のそれぞれが、安全・快適に通行でき

## 世界トップクラスの自転車利用率を誇る都市…大阪

自転車は環境に優しく、しかもCO<sub>2</sub>排出削減にも貢献する優等生だと言われている。ところが、日常では放置自転車から、ルール、マナーに至るまで自転車に関わる課題は山積みである。また、自転車に関わる交通事故も増加傾向にあ

り、大阪の大きな社会問題となっている。

法律では「自転車は車両の仲間、車道が原則、歩道は例外」としながらも、車道では自動車に追いやられ、本来自転車は安心して通行できる通行環境がまだ整っていないのが現状である。そんな問題の多い大阪で、このほど自転車の通行環境を整える計画を作ろうという検討会



自転車対歩行者の事故が15年間で約13倍に急増

出典:大阪の交通白書

## ニュース

### 大阪府の自転車条例が4月1日から制定・施行されました。

(保険加入の義務化は7月1日から施行)

条例には、交通ルール・マナーの向上をはじめ、自転車保険の加入義務化や、高齢者のヘルメット着用、交通安全教育の充実、自転車の点検・整備に関する規定などが盛り込まれています。

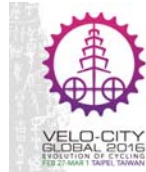


※大阪府自転車条例HPより  
<http://www.pref.osaka.lg.jp/dorokankyo/osakajitensha/index.html>

るよう、今後の大阪市における自転車通行環境整備を効果的かつ効率的に継続して進めるための「考え方」や、「整備方法」について、パブリックコメントも取り入れて議論してきた。2016年3月には整備計画案をとりまとめた。道路は時代に則した使用用途の見直しが行われ、それによ

り速度規制や信号機、自転車レーンといった様々な整備が必要となる。私たちは、これら整備に関わる交通管理者(警察)と、道路管理者(行政)が一丸となって協力連携し、弱者優先の立場に立つて環境整備を進め、この大阪が魅力溢れる都市となるよう見守っていききたい。





# 台湾の自転車パワー 自転車の国際会議 「ヴェロシティ2016」参加記



オプションのサイクリングツアーでは「歴史めぐり」に参加。狭い路地やお寺めぐりが日本のツアーと共通性があり、親しみがわきました。



バイクパレードでは高速道路も走行しました!

## 世界の人たちが「自転車をめぐってディスカッション

「自転車で都市を変えたい」という人たちが集まる自転車の国際会議「ヴェロシティ

ツールとして、大きな可能性があると思います。

## 130台のハンドサイクルとともに

ヴェロシティの目玉の一つは「バイクパレード」。今年は2月28日に台北市内を17キロまるまるコースでおこなわれました。派手な衣装を着た人たちが、長つらなるタンDEM自転車など、趣向をこらした多くの自転車が、一斉に走ります。

私は先述の「生命励活健康会」のメンバーとともに走りました。当日集められたハンドサイクルは、なんと130台。とにかく、みんな、元気で明るい。

ンでは「ハンドサイクル」の普及に取り組み台湾の団体「生命励活健康会」からの発表もありました。ハンドサイクルは座った状態で両手を使ってハンドルをまわしてこぎ進めるもので、肢体に障がいのある人も利用できる自転車です。

タンDEM自転車もハンドサイクルも、ともに、人々の行動範囲を広げる、つまり人々の生活を豊かにしてくれる



発表がスターの前で。左はタンDEM自転車やハンドサイクルの活動で活躍している台湾の黄朝松さん。

2016」が、2月27日、3月1日に台北で開催されました。ヴェロ(Velo)とは「自転車」の意味。毎年、世界の各都市で開催されており、昨年はフランスのナント市でした(本紙137号掲載)。アジアでの開催は台北が初。研究者や行政関係者、企業、NGOなどが世界各国から集まって、シンポジウムやワークショップ、ポスターセッションなど、国際会議場内のあちこちで発表とディスカッションが繰り広げられていました。

## 「タンDEM自転車の可能性は？」大阪での活動を発表

さて、私はと言うと、「大阪でタンDEM自転車を楽しむ会」(事務局・あおぞら財団)でおこ

あっちこちで記念撮影。私は2014年10月に台湾の視覚障がい者の合唱団「展翼合唱団」によるタンDEM自転車ツアーに参加したのですが、そのときの



台湾の自転車ピクト。奥の白線の四角はオートバイが信号待ちする場所。

ボランティアメンバーの人たちとたくさん再会しました。タンDEM自転車もハンドサイクルも、協力しているメンバーがかなり重なっているんですね。助け合って、声かけ合って、にぎやかなバイクパレードは終了。「自転車って大事。自転車っておもしろい」そんな気持ち共有できる場「ヴェロシティ2016」でした。

## 日常生活にタンDEM自転車を使いたい

~アンケートでニーズと課題を調査~



姉妹で、後ろの席の妹さんは視覚障がい者

2人乗りのタンDEM自転車は、視覚障がい者をはじめ一人では自転車をこげない人でも、後ろの席なら乗ることのできる自転車です。日ごろ移動に困難を抱える人にとって、日常利用への期待が高まる一方、自転車そのものがあまり知られておらず、ニーズや課題が明らかになっていません。そこで、あおぞら財団では大阪市立大学大学院工学研究科の吉田長裕先生との協力のもと、「タンDEM自転車利用に関するアンケート調査」を昨年実施し、117件の回答を得ました。

タンDEM自転車に乗った経験のある99人中70%が「日常生活にタンDEM自転車を使いたい」と答えています(うち、すでに利用している人4%)。

一方、一般道路をタンDEM自転車で走行する場合の不安要因については、「車道を走る自動車の交通量」66%、「車道を走る自動車との間隔」51%を選択した割合が多く、タンDEM自転車の「バランス面」27%、「操作性」26%を選択した割合は少ないという結果でした。



知的障がいをもつ息子とお父さん

さらに調査結果の分析を進める必要がありますが、タンDEM自転車を日常生活に使いたいと考えている人が多くいることを踏まえ、今後はさらに一般道路での走行を重ねて、課題の洗い出し、一般道路走行のためのマニュアルを整備していきたいと思ひます。

### <アンケート調査概要>

期間=2015年5月~10月  
対象=タンDEM自転車体験会参加者、自転車関係団体所属メンバーなど  
回答者=117人(うち、障がいのある人は36人)  
回答方法=筆記およびウェブ入力

※あおぞら財団ではタンDEM自転車のレンタルをおこなっています。(問い合わせ先:06-6475-8885)



バイクパレードの途中、自転車を持って入れるトイレを発見。緑の方は車イス用で、ハンドサイクルのまま入れます。



タンDEM自転車もバイクパレードに登場

をしましたが、「タンDEM自転車は知っていたけど、障がいのある人が乗れる、という視点では見ていなかった」という意見が大半で、それは「グッドアイデアだ!」といった受け止められ方でした。同じくこのポスターセッション



手前はシェア自転車の「ユーバイク」。あちこちにこのような乗り置き出来るポートがあります。奥に見えるように台湾ではオートバイがいっぱい。



# 忙中筆

## 出会えてうれしい

縁のちからを信じて

### 西淀川の子どもたちと

2013年の春、人とのご縁を手練り寄せたらいつのまにか、西淀川子どもセンター（以下、センター）とつながり、あおぞら財団とも出会って、住む場所に導かれ今ここにいます。センターの活動に関わりながら財



10代から70代まで、頼もしく愉快的なスタッフたちとともに

団でアルバイトとしても働く中で、西淀川がどんなまちかというのを地域のいろいろな人との出会いや活動を通して学ばせてもらってきました。

センターでは、子どもたちとごはんを作って食べ、勉強したり遊んだりして夜の時間を一緒に過ごす「夜間サテライト事業」を主に担当。ひとりや子どもだけで夜を過ごしている子どもたちの気持ちが気になって始まった活動で、私はコーデイネーターとして、子どもや保護者さんとやりとりしながらドラマチックな日々を過ごしています。

センターのスタッフは、年齢も住む場所も立場も個性もさまざま。そんな多様なおとなの関わりの中で、子どもたちが自分で力を発揮して前に一



琵琶湖で夢中に遊ぶ子どもたち

い子が、勉強したい気持ちがあることを伝えてスタッフと取り組むようになったり。そんな子どもたちのいきいきした姿をそばで見ていると、本当に出会えてよかった！としみじみ思います。

### 東北の子どもたちと

他に、福島県や宮城県南部の子どもたちを琵琶湖に招いて、毎年夏に開催している保養キャンプ（放射能に関する不安から一時離れて心身の疲れを癒す取り組み）のスタッフもしています。参加する子どもはリーダーが多く、年に一度親戚の家に遊びに来るような感覚で再会できることを1年間楽しみながら過ごしている様子が伝わってきます。また会いたい、と思



吉田 智里（よしだ ちさと）

プロフィール：奈良県出身。大学時代から子どもに関わるさまざまな活動に携わり、子どものもつパワーに圧倒される。地域福祉NPOにて障がいのある人や子どもたちと共に活動した後、「NPO法人西淀川子どもセンター」と出会い、現在スタッフ。西淀川在住歴2年半。福島・宮城の子どもたちの保養キャンプにも関わる。

う人がいるというのとはとても大きな力になっているように感じます。

### 一人のおとなとして

「子どもの貧困」という言葉がよく聞かれるようになりましたが、子どもには何の責任もありません。保養キャンプがあるのも原発が存在して事故が起きたからで、そんな社会を生み出している私たち、一人ひとりのおとなの責任。そのことを見失わないように、しっかり引き受けながら、目の前の出会った子どもたちと、そしてこれから出会う子どもたちと、いつか一緒に過ごしたことをうれしく懐かしく思い出せるような時間を、これからも大切に重ねていきたいと思っています。

## 西淀川の2つの農園紹介

# 『ニシヨドガワノラシゴト』と『に〜よん農園』

9万6000人

もの市民が暮らす住宅密集地の西淀川区

に、2014年から農園が2つもできたこと、みなさんご存

知でしたか？

1つ目は「ニシヨドガワ ノラシゴト」。これまでもこの紙面で紹介してきた佃地区の(株)ニチソーサービスさんの工場敷地内をお借りして造成した約500㎡の農園。ここでは、エコでつながる西淀川推進協議会(事務局:浜田化学(株))が中心になって、市民参加型でノラシゴトを楽しみながら環境にいい街をつくらうとする取り組みです。2016年3月には2回目となる満開の菜の花畑に！

2つ目は「に〜よん農園」。大阪市の市有地の中には、色々な理由で売れ残っていたり、条件が悪くてうまく活用されていない土地も…。そこで試行的にですが、西淀川区役所が主体となり、出来島地区にある市有地を“一時的”に農園にリノベーション。地域の皆さん

らの協力を得ながら、サツマイモ、落花生、黒豆、木綿を栽培。地域コミュニティーづくりの一環で進められているので、地域の幼稚園児を招いてできた野菜をみんなで収穫しました。これからは、イチゴ、タマネギ、スナップエンドウを収穫予定。

あおぞら財団も「に〜よん農園検討会」のメンバーとして参加しています。

生育状況は、区役所HPからも確認できますので、是非ご覧ください！！

さい！！



さあ〜がんばれ

イモほりだ〜



に〜よん農園

ニシヨドガワノラシゴト



に〜よん農園HP  
http://www.city.osaka.lg.jp/nishiyodogawa/category/1174-14-0-0.html



あまくておいしかったよ〜





# 第3回 よそものが釜石に行く。

「民泊」という言葉をテレビやインターネットで聞いたことがある方も多いのではないのでしょうか。簡単にいうと、主に訪日外国人観光客に対して、一般家庭の部屋を貸し出すサービス。釜石の民泊は、農家さんの家に泊まり、農業体験やお母さんとの料理作りといった生活体験を行い、家族の一員のように過ごすのが特徴です。釜石では震災により受入を一旦ストップしていましたが、2014年より再スタート。なんとタイの大学生約30名の受入からでした。青年海外協力協会(JOCA)によるJENESYS2.0という日本での教育プログラムの一環として釜石で民泊を実施することになりました。参加者の多くは日本語を理解できないという前情報があったため、受入家庭は不安そうでしたが、始まってみると身振り手振りのジェスチャーや持ち前の明るさでなんなくコミュニケーションをとり



仲良くなっていました。(帰り際にはハグするものや、涙するものも)民泊を通して、自然や食そして人という地域資源を存分に楽しんでもらえたように思います。このタイの大学生受け入れ以降、

友好都市である富山県朝日町中学校、東京に住む社会人などの受け入れを行ってきました。

この民泊にはとても可能性を感じています。参加者にとっては、非日常を得られること。受入家庭にとっては、この場所にながら地域外の人と交流が生まれ、日常の魅力を再確認できる。訪れる人、それをもてなす人お互いにメリットがあると思います。民泊はある場所からある場所へ移動するだけの観光では得ることができない地域の魅力を感じることが出来ます。釜石を訪れる機会があれば、ぜひ民泊を選択肢の一つに入れてください。

**プロフィール**  
 鹿島 卓弥(かしま たくみ)  
 1983年生まれ。千葉県富津市出身。  
 広告代理店営業を経験。退社後に海外へバックパッカーの旅に出る。現在釜援隊として釜石観光物産協会で活動中。  
 釜援隊協議会(釜石リージョナルコーディネーター)  
 〒026-0021 岩手県釜石市只越町3-9-13 釜石市役所内  
 TEL 0193-22-8600 FAX 0193-55-6699  
 釜援隊公式サイト: <http://kamaentai.org/>  
 釜石まるごと観光Navi かなまび公式サイト:  
<http://kamaishi-kankou.sakura.ne.jp/>  
 \釜石滞在プログラム紹介ページができました!\n  
<http://kamaishi-kankou.sakura.ne.jp/local-tour/>



昔のキング写真館



中学1年生だった昭和36(1961)年に第二室戸台風があり、写真館の2階から水没した大和田地区を撮影した写真。

大和田にあるキング写真館は西淀川唯一の写真館です。現在の写真館を担う三代目の峰原利範さんにお話を伺いました。



峰原 利範 さん

2016年4月26日  
聞き取り

◆正月の三日目で1年喰える  
 「初代の時代の大和田は西淀川一の繁華街で、今という野田ぐらゐの規模で、芝居小屋やカフェがあったそうです。カメラが家庭に普及していない時代は、正月の三が日に家族写真を写真館に撮りに来てくれて、それだけの稼ぎで『二年間喰えた』といわれるほど」写真館は繁盛していたそうです。

## シリーズ 西淀川記憶あつめ隊 Vol.16

◆入りやすいお店  
 「昔は沼地が多くて、葦がたくさん生えていて、ザリガニやフナを捕って遊びました。大野川の河口で泳いだこともあります。イチジク畑のなごりもあります」と、今とは全く違う西淀川の原風景が大和田には広がっていたようです。大和田といえば漁師町であり、商売人も多く、三つ日は夜店が出て、夜店の数が増え「すごかった」そうで、子どもの時の楽しみだったそうです。また、写真館には常に町の人たちが寄ってご飯を食べたり、相撲を見ており「入りやすい店だったんやろうね」と下町らしい一面も紹介してくれました。

◆国際色豊かな大和田  
 戦後ベビーブーム1世代の利範さんが淀中学校に通っていた時は、一学年に18クラスもあり、二クラスは50人を超えていたといえます。同級生には朝鮮半島にルーツを持つ人も多く、写真館の出張撮影に家に招かれることがあり「華やかで料理も豪華で、キップもよかったです」

◆アナログからデジタルへ  
 写真館の仕事は結婚式の写真や家族の記念写真、学校や保育園の写真、工場の機械が新設された時の写真や、行政の工事写真など多種多様。西淀川には「落鳳殿」という結婚式場があり、昭和50(1975)年ごろまでは結婚式の写真が中心だったそうです。真が中心になっていきます。西淀川の空は黄色やったけれど、ちよんどのところからきれいになってきて今はビックリ。今は

よ」とのこと。  
 「今は、モスクが近くにできたら、バキスタンの人たちが写真を撮りに来るよ。彼らは人当たりがいいね」と、国際色豊かな大和田の側面も

企業や商売人が減ってマンションや住宅が建って新しい住民が増えたね」と町の変化を教えてくださいました。  
 「四代目がデジタルに対応してくれたことや、仕事の切り替えができたから今も続けられているのだけれど、一番は信用と技術だと思」と、証明写真がうまいとほめられていたと語る峰原さんの顔からは、長年の経験と自信が伝わってきました。◎



今のキング写真館: 〒555-0032 西淀川区大和田5-18-25 TEL: 06-6471-2782

## 防災絵本「西淀川にたいふうがきた」ができました

防災絵本「西淀川にたいふうがきた」と副読本が完成しました。西淀川区は周囲が海や川に囲まれており、水害に弱い地域です。その一方で、核家族の増加、共働き世帯の増加などにより、子どもだけで家で過ごす時間が長くなっています。そこで、子どもだけで家にいる時に災害がおこってしまったらどうするのか? どういうことを備えておくといいのかを、子どもたちやその保護者の方々に考えて欲しいという思いのもと、絵本と副読本を作りました。

3月23日(水)には、この絵本の読み聞かせ会を開催しました。絵本を読んでくださったのは、虹色手芸店の石井さんです。参加者は、子ども5人を含め全部で12人でした。参加してくださった方からは、「子どもが留守番をしている時はどうするのか? というのは考えていなかったの、家族で話し合いたい」「小さい子に教えるのに絵本はよいアイデア」といった感想をいただきました。

この絵本は、あおぞら財団で無償で配布しています。興味のある方はぜひお問い合わせください。

谷内 久美子(あおぞら財団特別研究員)



防災絵本の読み聞かせ会。小さい子も絵本に集中!



※絵本は平成27年度公益財団法人JR西日本あんしん社会財団の助成を受けて作成しました。



にじゅうまる!

1996年9月11日に設立されたあおぞら財団。設立20年を目前に控え、財団職員がそれぞれの切り口で、これまでの20年を振り返ります!

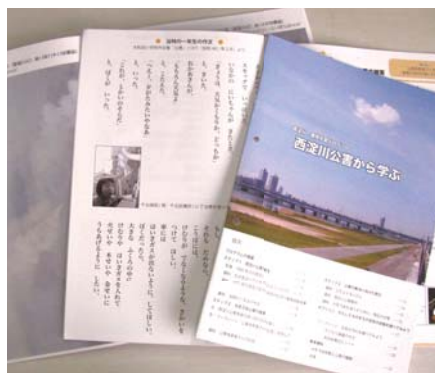
# 公害・環境教育教材からふりかえる

## あおぞら財団の20年(上)

1996年  
〜  
2002年

あおぞら財団を説明するとき「地域再生のまちづくりに取り組み団体」と紹介することが多いのですが、もうひとつ重要な役割として、公害の経験についての情報発信と人材育成があります。

私は2015年度から財団内で環境学習を担当することに



授業案と解説資料で構成した『西淀川公害から学ぶ』(2015年11月)

なりましたが、これまで作成されてきた教材を見ていて「あれ? 意外と西淀川公害についてコンパクトにまとめた小学校教育向け資料がない」と気づき、まずは「ドコモ市民活動団体への助成金」を活用して、昨年11月『西淀川・環境学習プログラム』として冊子『西淀川公害から学ぶ』をまとめました。この冊子は、教員の方で西淀川公害をまったく知らない人が増えているため、まず関心をもってもらうことをめざして編集しました。

うした状況の中、あおぞら財団ではどのような問題意識で西淀川公害の経験について伝え、公害・環境教育のための教材づくりに取り組んできたのでしょうか。機関誌『りべら』(121号までは『Libella』)のバックナンバーをもとに振り返ります。

### 第1期「公害経験を伝える」冊子・資料

あおぞら財団が設立された初期は、「教材」としてというより、まず「公害経験を伝える」という目的で冊子・資料が作成されました。



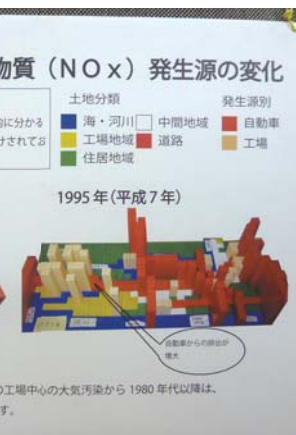
第1期に紹介された冊子・資料

『西淀川フィールドミュージアム まちあるきマップ』(1997年)や『西淀川の原風景を訪ねる—まちづくりたんけん隊活動報告書1996〜1998』(1998年)、『公害患者からみた日本の大気汚染公害』(1999年、英訳付き)などが紹介されています。

り組むことが報告されています。ここで初めて、教育現場を意識した教材づくりに取り組み始めたといえるでしょう。

研究会」が2000年10月に立ち上げられました。2001年には早速、西淀川公害学習用パネル「知っていますか? 西淀川の公害」が作成されます。解説のための資料集もあわせて編集

ラム・教材づくりに取り組みました。松村暢彦さん(大阪大学工学部助手)「当時は『Libella』55号(2001.3)の巻頭で、自動車の利用を減らす道路環境対策(傍点筆者)のひとつとして「モラルや環境マインドを



SCPブロックの解説ボード

された、2005年に作成された視聴覚教材「手渡したいのは青い空 未来へのメッセージ」と共に、今でも区内の小学校5年生への授業などで活用されています。

くむ学習アプローチ」を提起されています。ここでは環境に関する知識をたくさん集めること以上に、「実際に手や足を動かして実感し、自ら気づくプロセスがより重要」と指摘されています。ここで、参加型学習の

のブロックを使ったプログラムの展開は、グローバル教育論を研究された松井克行さん(大阪府立西淀川高校)「当時は参加型学習の手法のひとつ「ダイヤモンドランキング」を取り入れ、大気汚染物質排出を削減するための政策提言(解決策)を話し合うアクティビティを作成、指導者向けの手引書に掲載しています。



子ども版の環境診断マップ作成手引書をつくるために開催された、せいわエコクラブ「遊び場ウォッチング」(2001年6月)

子の子ども版の手引書で、1989年の国連での「子どもの権利条約」採択(日本は1994年批准)を背景に、地域住民の一員である子ども自身が自らとかわる問題を学び、取り組むことで、まちに関



SCPブロックを活用したYMCA学院高等学校での授業(2004年2月)

### 第2期「交通環境学習と地域環境しらべ」

大気汚染公害を経験した地域の再生に取り組むというあおぞら財団のミッションと直結した公害・環境学習プログラムとして、研究会では「交通環境学習」と「地域環境しらべ」に関するプロ

もチャリンコチャンピオン」といったワークショップを実施していますが、安全教育のプログラムが中心である交通教育を環境教育の視点から見直すうとする試みとして作成されたのが、市販のブロックを使って大気汚染の変化に関して視覚的に把握する教材「SCPブロック」(2002年)です。こ

もうひとつの試みが、「かぶり」とえころ爺のまち調べとマップづくり」(2002年)です。その前年度、環境省委託事業「環境アセスメントのための環境診断マップ作成マニュアル整備事業」を受けて作成した冊

心を持つ住民へと育っていくことを願ってつくられています。せいわエコクラブのみなさんと会議を重ね、編集されました。あおぞら財団の環境学習の目的のひとつである、環境まちづくりに取り組む担い手の育成をめざしたものでした。



(つづく) 栗



## ありがとうございます

((2015年12月~2016年2月 敬称略・順不同))

### ●お助けボランティア

岡村 裕成	西口 勲
岡崎 久女	中島 晃
山下 晴美	酒井 健一
	山崎スチール株式会社
	株式会社 あゆみ印刷デザイン

### ●寄附・寄贈者

薬害イレッサ訴訟原告弁護団	矢島 鉄也
石川 和広	甲斐 道太郎
Puれいは〜つ	新田 保次
森山 正和	鷺坂 長美
蔵本 幸治	新井 真
小林 俊康	功刀 恵美子
小川 嘉憲	松村 暢彦
吉田 巖	小口 悠
村松 昭夫	浅井 真二
吉村 良一	日本科学者会議有志一同
宮本 憲一	柏原 愛子
植田 和弘	金谷 邦夫
石井 琢也	長瀬 文雄
	蔵本 孝治

## ●緑道散歩

西淀川区区内を貫く全長3.8kmの大野川緑陰道路。区民いこいの緑道の風景を紹介します。



歩く足が、ペダルをこぐ足が、思わず止まる見事な桜です。大野川緑陰道路の名物の一つ。桜の時期には毎年楽しませてくれますので、どうぞ来年の開花をお楽しみに。(2016.4.3撮影)

## りべら No.140 2016年5月号(季刊1日、年4回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)  
 編集人:鎗山善理子  
 〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階  
 TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885  
<http://aozora.or.jp/> webmaster@aozora.or.jp  
 デザイン:(株)パード・デザインハウス  
 会員の購読料は会費に含まれています。  
 本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



## ●あおぞら財団 特別研究員です。

南 聡一郎  
 (京都大学大学院経済学研究科・特定助教)

大気汚染公害は終わっていない。欧米でも大気汚染公害は深刻で、LRT(新型路面電車)を復活させたり、総合的な都市交通計画をつくらせたりして、今も不断の取り組みが続いています。経済成長にともなう途上国の大気汚染公害は深刻です。昨年調査で訪れたインドのニューデリーでは、環境裁判所で行われていた大気汚染公害訴訟を傍聴しました。大気汚染公害は、未だ世界が取り組むべき課題です。私は昨年より大学の環境学の講座を担当させていただいておりますが、大気汚染公害は初めて聞いたという学生も少なくありません。教育・研究活動を通じて西淀川の経験を発信し、国内外の大気汚染公害の被害をなくすために少しでも貢献したいと、改めて思う次第です。

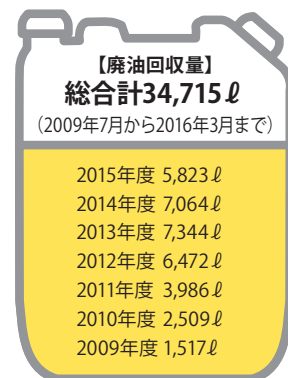


スモッグで霞むニューデリー市内の様子

パリのLRT

## ●西淀川菜の花プロジェクト

～エコでつながる西淀川～



現在西淀川区内外55箇所、廃油を回収しています。回収団体募集中。



## ●スタッフツイッター 編集後記

こいだら前に走るから、自転車はたのしい。みんなと同じようにできなくて、目に涙を浮かべていた女の子が20キロの道のりを最後まで走りきったり、足が痛いとぐずっていた女の子がお弁当を食べた後は走り回っていたり。なんやかんやの喜びを自転車に感じています。

### 【お詫びと訂正】

前回の『りべら』139号(2016年2月発行)の1ページ目序文に「132カ国の外国籍住民が～」との表現がありますが、この数字は大阪市全体のもので、西淀川区では49カ国です。お詫びして訂正いたします。



広告

ディサービスセンター

# あおぞら苑

あおぞら御膳

あおぞらの湯

2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

【お問い合わせ】  
 TEL : 06-6475-0111 FAX : 06-6475-0114  
 URL : <http://aozoraen.com/>  
 運営 : NPO法人西淀川福祉・健康ネットワーク

◆あおぞら苑(事業所番号 2771001076)  
 〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号  
 開所曜日:月曜日~土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771001407)  
 〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号  
 開所曜日:月曜日~金曜日 利用人数: 1日20人

Hamada Kagaku
広告

## 廃棄物でお困りなら 浜田化学のコンシェルジュに お任せください

廃食用油  
リサイクル

使い終わった廃食用油

食品残渣  
リサイクル

加工中に発生した食品残渣

廃棄物  
リサイクル

その他の廃棄物

お客様に最適なメニューをご提案いたします。

詳しくはホームページをご覧ください。 浜田化学 コンシェルジュ 検索

**浜田化学株式会社** ☎06-6411-3457 <http://www.hamadakagaku.co.jp>

## 〈広告募集〉企業・団体・個人の皆さま

あおぞら財団の活動周知のため  
 「りべら」発行部数増にご協力ください。

「りべら」は、あおぞら財団が取り組む環境活動やまちの情報を伝える機関紙として、年4回(季刊)発行し、あおぞら財団会員様をはじめ、公共施設・店舗・各種施設にて配布しています。あおぞら財団の活動拠点である大阪市西淀川区を中心に、環境問題や地域再生に取り組む様々な方々に登場いただき、環境の取り組みやまちづくり活動の輪をつなぎ、広げていきたいと思っております。現在、より多くの方に読んでいただけるよう、発行部数増をめざしています。(1500部→3000部)。あおぞら財団の活動趣旨に賛同いただき、ともに環境活動に取り組んでいただける企業・団体・個人の皆さまから「広告費」という形での協賛をお願いできればと思います。いただいた資金は、本「りべら」の紙面の充実・印刷費として活用させていただきます。あわせて定期購読、会員も募集中です。どうぞ、ご協力お願いします。

【りべら広告掲載費】  
 中面1/9頁:1万円/回  
 中面1/3頁:3万円/回  
 中面 全面:9万円/回  
 お問合せ先:あおぞら財団まで  
 TEL06-6475-8885